

名和診療所長
紙本 美菜子

ペリコバクター・ピロリと

みなさん、ペリコバクター・ピロリをご存知ですか？「ペリコブター？」なかなかいい線です。このコーナーでもこれまで何度も登場しているかもしません。

ペリコバクター・ピロリ（通称「ピロリ菌」）は、感染したヒトの胃の中に住み着く細菌の一種です。らせん状のからだの片側に数本あるしつぽをペリコブターのようにくるくる回して動くので、そう名付けられました。ピロリ菌はウレアーゼという酵素を持ち、胃の中の尿素という物質からアルカリ性のアンモニアを産生し、強酸性の胃酸を中和することで自分の住環境を作ります。このピロリ菌が、胃の粘膜に炎症を起こし、胃炎や胃・十二指腸潰瘍、胃がんの発症に深くかかわっていることがわかっています。

ピロリ菌は、オーストラリアのバリーマーシャル博士らによって発見されました。博士は、ピロリ菌が胃炎や胃潰瘍の原因になると仮説をたてました。その仮説は周囲に信じてもらえませんでした。そこで博士は、培養したピロリ菌の塊を自ら飲んで胃炎になりました。その病原性を証明したそうですが、自分の身を挺した実験が功を成

れ、欧米人の約2～3倍です。20歳以下の感染率は低いものの、50歳以上は約50%～80%が感染しているといわれています。これは子どもの頃、上下水道などの整備がなく、衛生環境が悪かった時代的理由があるためといわれています。

また、胃潰瘍患者の65～80%、十二指腸潰瘍患者の90%の胃の中にピロリ菌がいることがわかつています。ピロリ菌を持つ胃・十二指腸潰瘍患者は、再発を繰り返すことが多かつたのですが、ピロリ菌を除菌することで、多くの方々が再発せず治るようになります。

これまででは胃・十二指腸潰瘍の方や胃悪性リンパ腫などの疾患の方だけに、ピロリ菌の除菌治療が行われてきましたが、今年2月から、胃炎の方にましても除菌治療が保険適応でできるようになりました。

ただし、保険医療で除菌治療を行うには、胃カメラ検査で慢性胃炎があることを確認するのが条件となっています。

これまで胃の発症予防、早期発見のため定期的に胃カメラ検査を受けられることをおすすめします。

し、マーシャル博士らは2005年のノーベル医学賞を受賞されました。ピロリ菌が培養されたのが1984年ですから、ピロリ菌の歴史はまだ30年あまりというところです。

日本におけるピロリ菌の感染者は、全人口の約50%、約6千万人と推定され、50歳以上は約50%～80%が感染しているといわれています。これは子どもの頃、上下水道などの整備がなく、衛生環境が悪かった時代的理由があるためといわれています。

「こころの健康カルタ」心の健康について正しい知識を持つていただき、より健康な町になることを願って作成しました。

こころの健康コーナー

こころの健康に関する内容を掲載します。



友人よ うつと思えば はげますな

(投稿してくださいました 小原 敏夫さん)



(イラスト)
長谷川由美さん

「こころの健康カルタ」の利用について

日々の暮らしの中で大事にしたい言葉や行動が読み込まれています。心の健康づくりの一環として、このカルタを保健課で貸し出しています。また、こころの健康カルタ普及員による普及活動もおこなっています。各種会合、地域の行事に活用してみませんか？

<心の健康カルタ、心の健康相談

についての問い合わせ先>

保健課 ☎0859-54-5206

(投稿者による説明)

うつ病は回復期に向かった時に、自殺の可能性が高いといわれています。その時、一番大切な事は励まさない事であり、ゆっくりと話を聞いたり、そばによりそってあげることが大切だと思います。

(文献より)

うつ病になると、気持ちが沈み込んでつらくてたまらないため死んだ方がまだと考えるようになってくる場合があります。

一般的には、うつ病が少し良くなったときに自殺の危険性が高くなるといわれています。気分が沈み込んで何をする元気もなくなっているときには、死のうと思ってそれを実行に移すだけの元気さえ出できません。しかし、少し症状がよくなると、死にたいと考えれば、その気持ちをすぐ行動に移せるようになります。こうしたときには本人の気持ちとまわりの人の考え方が食い違いやすくなっています。食い違いがあると、本人は誰にもわかってもらえない絶望的になります。

厚生労働省地域におけるうつ対策検討会「うつ対応マニュアルー保健医療従事者のためにー」

